

さいたま
見沼

よみさんぽ

2022

Vol. 43

まち歩き 11

時の流れを意識して

100年後に残したいものは



記録写真家 柿内未央

時の流れを意識して 100年後に残したいものは

1. 御成街道とともにある丸家の人々

日光御成街道の概要は前号で紹介されていますが、徳川家康が祀られている日光東照宮へ徳川将軍が参内するために江戸時代に造られた道です。それから400年余りの年月を経て、私は通勤時にお世話になっています。朝夕は交通量も多く、渋滞もしばしばです。私が頻繁に通るようになったここ20年程でも道沿いの風景は変わっていきます。この間まで植木畑や雑木林だったところがトラクターミナルになっていたり、何かの工場になったり……

今号では、1600年代から先祖代々、この地に暮らしている丸志伸さん（1963年生まれ）にお話を伺い、日光御成街道やその周辺に暮らしていた人々のことを考えたいと思っています。丸さんのお宅はまさに御成街道沿いにあり、天久保坂を過ぎて上野田の交差点の手前にあります。道路を挟んで向かいにはさぎ山記念公園があります。

亡くなられたお母さまが住んでいた住宅を改装し、今年の5月から丸園レストハウスとして、かじゅある盆栽の事業や地域でのさまざまな活動に取り組まれています（やどかり農園に畑地を貸してくださっている方でもあります）。

丸さんのお宅に残る先祖の墓石で最も古いものは1693（元禄6）年だそう



丸志伸さん



かじゅある盆栽販売中：有楽町・交通会館マルシェ

です。徳川5代将軍綱吉の時代です。見沼田んぼは8代将軍吉宗の命によって開墾されていますので、それ以前から丸家のご先祖はこの地で暮らしていたわけです。丸さんは文書館などで御成街道のことやこの地域の歴史を調べています。まだ断片的な情報しか集められていないそうですが、当時のことに思いめぐらせ、興味深いお話を伺いました。

2. 日光御成道の歴史をたどって

1) 将軍専用の御成街道、街道沿いの民衆は大行列をどう受け止めていたのか

丸さんは、「数千人の行列が通る際にはその人たちを支える物資の提供や人的支援が求められたはずです。その際にこの地の住民は貴重な収入源として歓迎したのだろうか、どんなおもてなしをしたのか興味深いところです。記録によると4月頃の参内が多く、農繁期でもあり、農業を営む人々には、実はあまり歓迎されない行列として捉えられていたかもしれない、という仮説も成り立ちそうです」と話します。図書館資料で調べると当時支払われた金額などが出てくるのだそうです。「もっと当時の人たちの思いを知りたいと考えています。まだ調査中」と丸さん。

2) 見沼の人々と政府や江戸の住民との関係

見沼田んぼが開拓されたのは、享保の大飢饉で食糧難にあえいでいた頃です。丸さんは「徳川吉宗は湿地帯だった見沼に用水を引き、米を作付けし、見沼田んぼは江戸の食糧を支え、江戸の経済基盤を安定させる1つの要因になりました。すでに御成街道でこの地と江戸はつながっていたので、江戸との交流はそれ以前よりあったはずです。見沼代用水や通船堀ができたことで、江戸とを結ぶ水運も発達し、見沼地域と江戸の交流はさらに活発になり、江戸とは対等な付き合いがあったのではないかと考えています。見沼地域の人々は江戸を支えているという気概や誇りを抱いて、御成街道の将軍の行列を見つめていたのではないかと、見沼と江戸の相互循環関係が成り立っていたのではないかと思います」と、代々この地を守ってきた人々に思いを馳せつつ、語ってくれました。

3) 白鷺が結ぶ見沼地域と江戸

徳川吉宗が見沼田んぼを拓いたことによって、鷺が田の中を歩きエサを捕食できる環境が整い、集団営巣するようになりました。そして、鷺は珍重され、徳川紀州家の囲鷺として保護されてきました。



「日光への参内の途中、将軍・徳川家慶が鷺の様子を観察のために立ち寄った記録も残っています(図)。この鷺も江戸と見沼地域を結んでいた重要な要素になっていたと考えられます。残念ながらこの鷺は1960年代後半には急速になくなるわけですが、1700年代から約

240年間守られてきたわけです。地元の人々にとっては大事な存在だったと思います」と丸さん。

3. 丸さんにとっての御成街道周辺

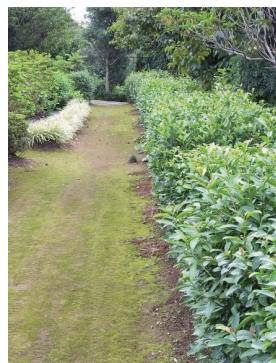
野田の鷺山として有名だった鷺の営巣地は、個人所有の土地にあったそうです。丸さんは、小学校3年生ごろ、「鷺山に外国人が観光バスでやってきました。外国人が珍しいので友達と見に行ったものです」と。丸さんが小学校3年生くらいまでは、鷺山として成立していて、「当時は鷺山タワー(写真)があって、観光地ではありましたが、直接的に地元へ経済効果があったかどうかはよくわかりません。でも、地元のアイデンティティを感じる場所であったことは確かです。私は小学生でしたが、鷺がいなくなったのは寂しかったですね。御成街道の交通量が増え、鷺は騒がしい環境を嫌い、ヘリコプターで農薬散布をするなどの環境変化の中で、鷺は激減しました。地元の私たちにとっては愛着があり、1つの拠り所でした。例えば、私が学生になって、大宮駅からタクシーに乗って『鷺山』と伝ええると運転手に伝わる、1980年代のことです。そして、埼玉スタジアム(浦和レッズのホームグラウンド、サッカーの国際試合も開催)も鷺が意匠されていますよね。浦和の銘菓「白鷺宝」も白鷺にちなんだお菓子です」と鷺と地元の結びつきを語ってくれました。

丸さんは野田小学校に通い、見沼代用水東縁の支流である天久保用水で遊んだそうです。「天久保用水は水量も豊富で水中に深い渦が巻き、そこに草を投げ入れて遊ぶだけでも楽しくて……その水の音や水の感触が今でも残っています」と話します。子ども時代の思い出が積み重なって、この地への愛着が生まれている



のだなあと思いました。

「行政は見沼田んぼは守っていくが、その外側はどんどん開発が進み、地主たちは、相続税の支払いに困って仕方なく土地を手放すことも多くなっています。このあたりの産業であった植木業を継承することも難しさは増してきて、かつての景観も失われつつあります。倉庫に囲まれた見沼田んぼが生まれつつある、それが現状です」と危機感を滲ませます。



お茶の木の生垣

丸園レストハウスを始めたのは、見沼田んぼにはさまざまな団体が保全活動等を展開していて、そうした人たちの拠点の一部になればとの思いがあるとのこと、庭には100年以上前に植栽され、管理されている無農薬・無肥料で品種改良されていない在来種のお茶の木が300メートルにもわたった生け垣になっています。10月には地域の歴史やお茶の歴史をたどりつつ、茶摘みや釜炒り体験をするイベントを企画されています。見沼地域の自然、景観を後世に残したいという丸さんの強い思いが伝わってきました。

4. 100年後に残したいこと

御成街道は、現在では県道105号線とされていますが、時代を経て、400年以上も人々の暮らしを支えてきました。この地は、今はバスや自家用車が交通の中心で、大事なライフラインです。100年後に残したいもの考えた時、この御成街道は欠かせない存在です。そして、丸さんが指摘する自然や景観も100年後に残したい大事な財産です。上野田の交差点を過ぎると間もなく、御成街道の左手に加田屋新田の緑が目飛び込んできます。

100年後も見沼地域にある自然と人との関係性を残していくために、私たちに何ができるのでしょうか。丸園レストハウスの取り組みを始めた丸さんが投げかけていることは、人々の暮らしが成り立つことと、自然や景観を守ると同時に考えていくことではないでしょうか。それは、御成街道に支えられ、この地の自然を共有している私自身の責任でもあるのです。（記 増田 一世）

■ 丸園（運営：株式会社ベストワーク）

〒336-0977 さいたま市緑区上野田492

TEL & FAX : 048-812-2677 E-mail : shinobu.maru@bestsaitama.com

<https://www.instagram.com/bestsaitama>

連載

埼玉の方言

母と方言と

母は三代続く“ちゃきちゃきの”埼玉っ子で、生涯埼玉（南部）弁が抜けなかった。それを聞いて育ったので、私は旅先の知らない人たちを、話し声だけで埼玉県人だと聞き分けられた。あれこれ言葉を思い浮かべてみると、ハマ（車輪）もケバ（毛）も大人になるまで方言だとは思わず、俗語かな？くらいの感覚で日常的に使っていたし、マミヤ（眉毛）、ブク（喪中）、ソラッペ（嘘）、ナビル（塗る）、ハシヤグ（日照りで乾いた状態）などは母がよく使っていた。

おもしろいのは、植木に水を「ヤル」ではなく「クレル」になることや、「来ない」（ルビ：「コナイ」）が「キナイ」になること。動詞に「オッ」など接頭語がつくのも特徴の一つである。「オッペス（押す）なよ。オッコロ（転）んだら、アシンボネ（足）オッペショル（折る）べー」という具合。また、母音や子音が変化するものも多い。たとえば、ネンジン（人参）、イゴカス（動かす）、モロ（室）……や、ハラバタ（はらわた）、ヒボ（紐）……のように、調味料入れに母の字で「シヨ」（塩）と書いてあったのも忘れられない。

オトコッコ（男子）、ヨーシッコ（養子）という言い方もある。掃除嫌いの私の部屋は「汚くてオンナッコ（女子）の部屋じゃない」と始終言われていた。母が子どもの頃（大正時代）は、良い恰好をしていると「トウキョッコ（東京子）みたい」と言われたそうだ。

考えてみると、もう久しく埼玉弁を聞いていない。私も単語はわかるが話すことはできないのだ。母の口癖だった「歳をとると、一年と言わず、一日ごめらにモボレテ（もうろくして）くるんだよ」という言葉が実感できる年齢になった今、しゃべれるようにならなかった自分を残念に思う。

ところで「一日ごめら」の「ゴメラ」——ずっと方言だと信じこんでいたが、方言辞典を繰ってみたらず載っていない！ 他の辞典にも！ ならば「ごめら」は何もの？ 今、新たな疑問の中にいる。
（記 並木せつ子）



アンテナの聖地



『知的財産が生きている』

松尾博志著（総合電子出版社、1999年）

*『アンテナを創る男たち』に加筆して一般向けに出版された

並木せつ子

かつて日本中で見られたトンボのような形のテレビアンテナ、あれを作っていたのは蓮沼にあった「八木アンテナ」です。ハヤブサ2に搭載されたアンテナなどを作っているのが宮ヶ谷塔の「アンテナ技研」。今はアンテナ技研だけになりましたが、見沼区は二つのアンテナ会社があった“アンテナの聖地”です。

八木アンテナは1925年、東北大学の八木^{ひでつぐ}秀次と宇田新太郎によって発明されました。戦後、八木は「八木アンテナ株式会社」を創業。大宮工場は1961年に新設され、アナログ放送終了後の2013年に集約されるまで見沼の地にありました。「八木アンテナ」というバス停も、2015年に「タムロン前」に変わりました。

このアンテナ、戦前の日本ではほとんど注目されぬまま、英米でレーダーとして実用化され、太平洋戦争では日本軍に大きな打撃を与えました。イギリス軍の捕虜から「YAGI」の名を教えられ、日本軍が驚愕したという話は有名です。今は二人の名から「八木・宇田アンテナ」と呼ばれています。八木とアンテナ、その周辺について知るには『電子立国日本を育てた男』（松尾博志著、文藝春秋、1992）を。湯川秀樹等の伝記を書くつもりだった著者が八木に興味をひかれ、ついには八木の伝記になってしまったという本です。

「アンテナ技研株式会社」は1965年東新井で創設、1987年宮ヶ谷塔に移りました。創業者は佐藤^{げんてい}源貞、八木秀次の孫弟子にあたるアンテナ工学者です。創業後も学者でありつづけた異色の経営者で、当初から＜設計と調整だけやる技術者集団に徹しよう＞という方向性を打ち出しました。

アンテナ技研については社史『アンテナを創る男たち』（1992年刊）を。著者が言うには＜アンテナ技研自体が変わっていて、興味深い存在だった＞とか。社史でありながら物語を読んでいるかのような本です。アンテナ技研は今も＜唯一無二、オーダーメイドのアンテナメーカー＞（会社概要より）としてがんばっています。

Play wood／Plywood

素材選び

モルタル、鉄、アルミ、ガラス、珪藻土、石膏などなど、様々な材料を適材適所を選び、図面に指定してきました。時にはプラスチックまな板の材料を扉に使ったこともあります。半透明で柔らかく光を通し、質の高いものは燃やしても水と二酸化炭素に分解されるだけで、廃棄される時に環境に影響が少ない点が気に入っていました。しかし、2センチ程の厚さのものに手掛けや蝶番を取り付けるために彫り込む加工を建具屋さんをお願いすると、粘りのある材質なため工具の歯がすぐにダメになると愚痴られ、それ以来使っていません。

好きな材料

そんな風に、時には変わった材料を試してみましたが、一番好きな材料は合板（ベニヤ類）。用途によって化粧合板、構造用合板、コンパネなどと分類され、最近ではLVL（単板積層材）やCLT（直交集成板）などと呼ばれる板状の集成材もあります。これらは木材を二次加工した材料ということでエンジニアリングウッドと呼んだりしますが、材質的に安定しているため、強度が一定で狂いが生じにくい特徴があるのです。そして、無垢の木材を使用するのとは異なり、希少な巨木を切らずとも間伐材などを集成することで、大きな部材も取ることができる。そんな環境に優しい点などが気に入っています。

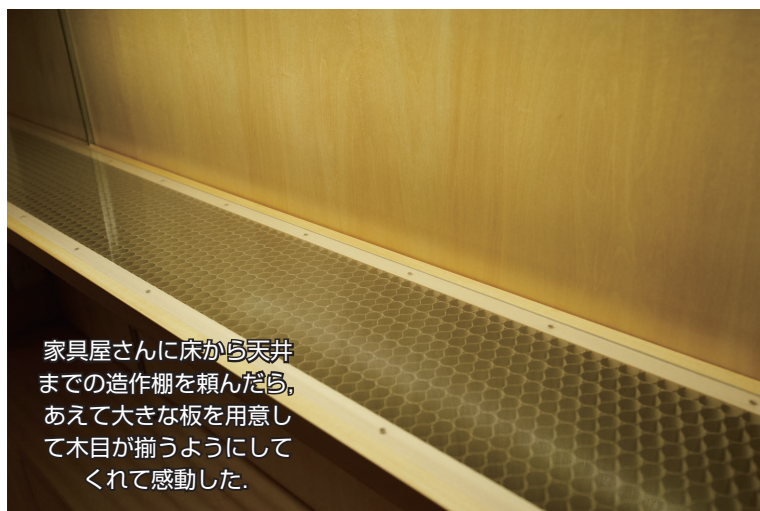
木で遊ぶ

ただ、それでも合板は合板、色気では銘木に敵いません。利用する側が注意深く利用して、美しく見えるように造形します。突き付けにはせずに、丁寧に目地をとってリズム良く、小口は弱いので無垢材で隠してあげる。シナ合板という木目が美しい合板はラッカーで仕上げた後、サンドペーパーでささくれを取り、ペーパーの裏でも擦ってあげるとロウが付いて、優しい光沢が出ます。

今度、みんなでキッチンカーを作ります。骨組みは合板で作ろうと思っています。ありふれた材料ですが、丁寧に使えばどんな高級素材にも負けないものになる。そんなキッチンカーを作りたいと思っています。



シナベニヤに目地という手間を加えると
部屋にリズムが生まれる。



家具屋さんに床から天井
までの造作棚を頼んだら、
あえて大きな板を用意し
て木目が揃うようにして
くれて感動した。

とまつりしゅんいちろう
都祭俊一郎

1975 年生まれ。生まれも育ちも、東京の下町。
エンジュの新築の他、保育園や幼稚園の設計（新築及び改修）
を複数行う。（写真 新 良太）





未来を拓く つなぐ・つくるプロジェクト・11



サロンカー DE 保健室 あなたのまちに保健室が伺います

緑のトラスト保全地1号地での開催

つなぐ・つくるプロジェクトで取り組んできた「地域巡回」。5月28日には、トラスト1号地（見沼田圃周辺斜面林・さいたま市緑区）という、緑のトラスト保全地での初の開催となりました。周辺は水路と林が一体となった、昔の面影が残る見沼らしい自然があります。この地の環境保全に取り組む「NPO 法人エコエコ」の皆さんともコラボした地域巡回、自然を体感するエコツアーでは、オオタカに出会えるという嬉しいハプニングも……

さらに初の取り組みとなったのが「サロンカーでのまちなか保健室」です。プロジェクトメンバーで建築士の都祭俊一郎さんが購入されたキャンピングカーを「まちなか保健室」に活用してはどうか、そんな提案がきっかけでした。このキャンピングカーのこだわりやポイントを、都祭さんにお聞きしました。

キャンピングカーは多様な可能性のある車

「犬たちが我が家に来てもうすぐ5年。旅先の泊まる場所に制約を受けないで済む手段として、何度かキャンピングカーのレンタルを経ての決断でした。



随分大きなものなので日常的に乗り回すことは難しいと考えていましたが、意外と取り回しも良く、外出先の仕事場として、工事現場の待機場所や打ち合わせ室にも活用しています。キャンピングカーといっても車体の大きさや形状は様々。私の場合、最大4人まで座れる座席、簡易トイレが置けるスペース、旅行中に犬を安全に車内に置いておけるように

するための冷暖房が条件でした。結果、救急車などで使用されている車両と同じようなものになり、高速道路の制限速度域でも安心して走れる車となっています。暖房は車の燃料タンクから軽油を使うタイプのボイラー、冷房は車両の発電機や太陽光発電パネルで発電した電気をバッテリーに蓄電した電力を利用するクーラーを取り付けました。

キャンピングカーは、電気も水も排水もすべてオフグリッドで賄う必要があります。他県では災害時の利活用について自治体と協定を結ぶ事例も聞かれますが、私の知る限り日常的な健康相談などで活用する前例はないと思います。都心に近く土地の広い埼玉県は、キャンピングカーの製造や販売を行う会社が多いという土地柄も、今回の活動のきっかけになったかもしれません」

「あなたのまちの保健室」を目指して

地域巡回で初となるサロンカーでのまちなか保健室。ヤギの鳴き声や子どもたちのにぎやかな声を聞きながらも、サロンカーがプライベート空間となって、健康のことや悩み事などを落ち着いて話せる保健室となりました。散歩途中の方が「血圧が心配で」と立ち寄られたり、サロンカー見たさに来られた方も、気づけば健康相談に……まずは血圧測定や体組成計で筋肉量・骨量など身体の状態を知ることから始まり、気になっていること、話したいことなど、何でも聞かせてもらうのがまちなか保健室の特徴です。「サロンカーに入るのはちょっと」と気が引けた方は、サロンカー前に用意したアウトドアチェアに座って、飲んでいる薬が不安だという声に、薬剤師が対応しました。調剤薬局では聞けないことも、自然の中では遠慮なく聞くことができたようです。

竹林と川に挟まれた自然豊かな場所での保健室が実現したことで、サロンカーはまさに「どこでも保健室」になる、そんな可能性を感じました。これからもキャンピングカーの活用にご協力をいただきながら、走る保健室、どこでも保健室、地域の保健室等……まちなか保健室は、ご希望があれば皆さんの地域にお伺いしたいと思います。

(記 大澤 美紀／都祭俊一郎)



*プロジェクトの活動に参加いただける仲間を募集中。まちなか保健室のサポートメンバーも募集しています。 <https://www.ttproject2020.com/>

ヤギ日誌



親子でお世話当番

元々生き物の好きな我が家の子どもたち。公園で虫やカナヘビを捕まえたり、時には家に連れ帰って観察したり……。子どもたちから、いつか動物を飼いたい！ とねだられていましたが、息子の犬猫アレルギーが発覚し、毛の生えている動物を飼うことはあきらめました（今はウーパールーパーを育てています）。

そんな時、やどかりの里の中でヤギのお世話当番を募集している話を聞き、子どもたちに動物とふれ合う経験をさせたくて手を挙げました。まだ数回しか当番にあたっていませんが、息子はすっかりヤギに夢中で、「次はいつ当番なの？」と待ち遠しく思っているようです。

先日はつなぐ・つくるプロジェクトの地域巡回に遊びに行きました。いつもは小屋で飼われている喜々と楽々が、広々とした場所で遊ぶ姿を飽きずにながめていました。普段お世話される側の喜々と楽々が地域の方たちをつなぐ役に立っている姿を見て、より一層喜々と楽々が好きになったようです。そんな2



頭のお世話をしていることを誇りに思っ、責任をもって動物と関わることを
続けていってくれたらいいなと思っています。 (記 森中理重子)

ぼくはお母さんといっしょにヤギの当番
をやっています。はじめ、お母さんに「ヤ
ギの当番をしよう」と言われて、牧場でや
るのかと思っていたらちょっとちがってい
ました。ぼくたちが行くとヤギがメーメー
と鳴いてよろこんでくれるので、うれしい
です。

ヤギのお世話当番になって楽しかったこ
とは、そうじをしたりすのこを洗ったりす
ることです。キキとララと友情がうまれる
みたいに感じるからです。気づいたことは、
キキとララは頭をぶつけて力くらべをして
います。ララは優しくてぼくたちに少しな
ついたみたいです。次の当番が楽しみです。

(森中理仁)



インフォメーション

人と人とのつながりで
安心安全な未来へ向けたまちづくりを



清掃スタッフ
募集中!!
QRコード
▲応募はこちら

M. 今日も 明日も そっと。
毎日興業株式会社

〒330-0842 埼玉県さいたま市大宮区浅間町2-244-1
TEL : 0120-156365 (フリーダイヤル) <https://www.mainchikogyo.co.jp>

芝川やギ部の応援グッズ

芝川やギ部は、ヤギをお世話することを通して、人と人との笑顔で交流をし、地域や社会がより良いものとなることを目的として発足しました。グッズの売上の一部と応援チケットの諸経費を抜いた収益は、ヤギさんのお薬や小屋の手入れなどに使わせていただきます。地域に癒やしを与えてくれるヤギ活動をぜひ応援ください!

芝川やギ部応援グッズ好評発売中!!

こちらから!→




最近眠れない...

なんだか気分が落ちこみわ

なんとなく先のことが心配...

そんな時、気軽に
お話ししてみませんか

お問合せ 見沼区障害者生活支援センターやどかり
電話 048-682-1101
火～土曜日(祝祭日を除く) 9:00～18:00







片柳地区社会福祉協議会

つながりを大切に活動しています

 048 (686) 8601

開設時間
月曜日～金曜日
10時から16時



援農ボランティア募集中

やどかり農園 (無肥料・自然栽培)



さいたま市見沼区染谷 1177-4
Tel 048-680-1891

◆やどかりの里職員募集

やどかりの里では、職員を募集しています。

●非常勤 (週3日程度)

●正職員 (新卒・中途採用)

*要普通自動車免許

*精神保健福祉士、社会福祉士 (資格取得見込み含む)

詳しくはやどかりの里法人事務局までご連絡下さい。

お問い合わせ) やどかりの里法人事務局 048 (686) 0494

すべての人々が人間らしく豊かに育ちあえる地域づくりをすすめるために

こうぬまふくしかい

社会福祉法人 鴻沼福祉会

こころを込めた手づくりの品をぜひ一度お試しください



いちず
とうふ屋 一豆

TEL 048-854-8000

FAX 048-854-3538

さいたま市中央区上峰2-10-20

つばさ共同作業所とそめや共同作業所が手がける、国産・手づくりこだわった本格とうふ。
宮城県産高級大豆「ミヤギシロメ」を100%使用し、オリジナル惣菜も人気です。
大豆本来の濃厚な甘さとコクを味わえる“小さなぜいたく”を食卓にお届けします。

きりしきのパン

TEL 048-854-6910

FAX 048-854-6942

さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内

きりしき共同作業所のパンは食の安全・安心にこだわり、原材料に国産小麦粉を使用しています。(一部商品を除く)

職人とともに手がけるパンは、少し懐かしい味と香りがします。



弁当屋 いちず

TEL・FAX 048-684-1257 さいたま市見沼区染谷2-145

そめや共同作業所のお弁当は旬を感じる手づくり弁当です。
野菜をたくさん取り入れ、手が込んでいると女性に大人気です。

鴻沼福祉会から読者の皆様へ

○鴻沼福祉会では、袋詰め・部品組み立て作業や清掃作業、資源回収など、地域の企業様のニーズに応えるべく様々な仕事を受注しています。働くことをとおして障害のある人がさらに輝けるチャンスを求めて新しい仕事にもチャレンジしつづけています。

○障害のある人たちの就労支援、生活支援、相談支援のスタッフを募集しています！ 問い合わせ先：048-854-6890 (担当オガワ)

鴻沼福祉会事業所一覧

●本部・事務局 埼玉県さいたま市中央区円阿弥1-3-15 鴻沼福祉会館内 TEL：048-854-6890 FAX：048-856-0313

《はたらく》●つばさ共同作業所(中央区) ●あざみ共同作業所(見沼区) ●そめや共同作業所(見沼区) ●きりしき共同作業所(中央区)

《くらす》●第1たかさご荘 ●第2たかさご荘 ●第3たかさご荘 ●かえでホーム ●かりんホーム ●よつばハイツ

●なつめホーム(以上、中央区) ●のぞみホーム(見沼区) ●ひかりホーム(西区)

《ささえあう》●中央区障害者生活支援センター来夢 ●地域活動支援センター来夢(以上、中央区)

●見沼区障害者生活支援センター来人(見沼区)

さいたま見沼よみさんぽ

作者紹介

記録写真家 柿内未央さん(表紙写真)

<https://lit.link/kakiuchimio>

最近、人が集う場づくりの活動とのご縁が増えました。

先日 撮影させていただいた

“ヤギと自然となかよしに”も、そのひとつ。

物と物 事と事 人と人……

私たちは常に なにかの間に在って
間の中を生きている。

あわい(間)一。

間そのものが

“わたし”を成しているのかもしれない。

(柿内未央)

表紙撮影地

緑のトラスト1号地(さいたま市緑区南部
領辻)



公益社団法人やどかりの里



やどかり出版



よみさんぽバックナンバーはこちらから
ご覧いただけます



公益社団法人やどかりの里



<https://www.yadokarinosato.org/kouhou/yomisanpo/>

さいたま見沼よみさんぽ 第43号

発行 2022年10月

編集 「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員会

〒337-0026 さいたま市見沼区染谷
1177-4

Tel 048-680-1891 Fax 048-680-1894

E-Mail johokan@yadokarinosato.org

<https://www.yadokarinosato.org/>

発行 公益社団法人やどかりの里

理事長 増田一世

印刷所 やどかり印刷

公益社団法人やどかりの里は、この大宮見沼界隈で障害のある人たちとともに地域で生きることを目指して活動を行っています。私たちは長年この地域で活動し、地域の皆さんに支えていただけてきました。

そして、この地域の人々が織りなしてきた歴史・文化、守り育ててきた自然、地域に根づいた事業等々をもっと知りたいたいと思うようになりました。合わせて、やどかりの里のことも皆さんにもっともっと知っていただきたいと「大宮見沼よみさんぽ」を創刊いたしました。またこの度、広く地域情報をお届けするため「さいたま見沼よみさんぽ」と改題致しました。

「さいたま見沼よみさんぽ」編集委員一同